

情報普及活動

本研究所の情報普及活動は特殊教育に関する図書資料等の収集、提供及び実際的な研究成果の普及を目的としており、我が国の特殊教育の振興に資する研究所として、研究活動及び普及活動、並びに情報化への対応を行う他、全国の国立特殊教育総合研究所センター等をはじめとする内外の研究機関等との連携・協力及び国際交流を通じた情報普及活動を進めた。

また、研究成果の普及については、プロジェクト研究をはじめとする各研究の研究成果の報告書を全国の関係機関に配布するとともに、特殊教育セミナーを年2回開催する他、国際セミナー等の開催によりアジア・太平洋地域を中心とした各国への情報提供による国際貢献に努めた。

1 障害のある子どもの教育の総合的な教育情報提供体制の整備

特殊教育諸学校等の教職員や保護者など、利用者のニーズに対応したものとなるようポータルサイトの掲載内容及び関係機関等へのリンク接続の充実を図った。特に、「障害のある子どもの教育について学ぶ」コーナーでは、各障害のことなどについて理解してもらうとともに、短期研修の講義資料等を掲載し、本研究所の研修受講者の事前学習に役立たせ、校内研修等でも利用できるようにしている。今後とも、ポータルサイトの掲載内容等の一層の充実を図ることとしている。

また、アクセシビリティ向上を目的として、Web・アクセシビリティ支援ツールを導入し、音声読み上げ、文字拡大、色変更やふりがな等の機能を追加し、それらの機能が効果的に利用出来るよう、各Webページのリニューアルを行った。

2 図書資料の収集・整備の状況

本研究所が特殊教育に関する情報源として果たす役割は極めて重要であり、平成17年度現在、図書資料の収集や学術文献の整備は、図書所蔵数が和洋合わせて約5万8千冊に達し、研究紀要、研究報告書等の所蔵についても約1万6千5百冊に達している。これらの中には本研究所の他、少数の大学や研究機関のみが所蔵する資料も少なくない。

すでに電子化公開を行っている本研究所刊行物については、蔵書目録データベースの検索結果から、直接電子情報を閲覧できる体制を図るとともに、未公開の刊行物についても、目次情報提供の準備を進めている。

今後とも、研究・研修等の諸活動の遂行を効率的に支援するための情報システムを構築することが重要であることから、引き続き研究資料、図書、学術文献等の収集・整備を行うとともに、海外の特殊教育関係資料の収集を図り、研究所内外からの閲覧や貸出等のニーズに適切に対応することとしている。

(1) 図書資料の収集・提供の状況

ア 資料の所蔵状況(平成18年3月31日現在)

	和	洋	合計	平成17年度の増加数
図書	41,950冊	16,015冊	57,965冊	753冊
資料(研究紀要、研究報告書等)	14,880冊	1,684冊	16,564冊	244冊
雑誌	1,342種	488種	1,830種	27種

* 研究紀要、研究報告書等の「資料」として所蔵している資料は、特殊教育のナショナルセンターである本研究所として積極的な収集に努めるべきものであり、各地での関係資料の発行状況の把握に努め、さらにはデータベース化の検討を進める。

イ 資料の提供状況（貸出冊数）

	平成15年度	平成16年度	平成17年度
研究員・職員（久里浜養護学校教職員を含む）	1,411冊	1,323冊	1,547冊
研修員等（長期・短期・講習会参加者）	2,135冊	2,884冊	2,448冊
合 計	3,546冊	4,207冊	3,995冊

* 平成13年度より、図書館入館管理システムを導入、閲覧については24時間対応を実施。また、図書室内にコイン式コピー機（管理は障害児教育財団）を設置、セルフサービスによるコピーサービスを開始している。

ウ 文献複写の対応状況

	平成15年度	平成16年度	平成17年度
受付件数	264件	299件	245件

外部からの文献複写サービス依頼については、平成17年度は245件について対応している。

また、複写以外にも、大学等外部機関からの研究所刊行物の寄贈依頼36件（送付冊数146冊）に対応している。

(2) データベースの整備状況

これまで蓄積されてきたデータは、インターネットを通じ利用できるようになり、ますます重要性が高まり、より迅速なデータ更新、累積が求められるようになった。

特殊教育関係文献目録については、平成17年発表の文献のほかに、平成元年以降に刊行された研究所刊行物のデータについても、遡って追加を行った。また、蔵書目録については、雑誌データに関して、新たに特集記事データの入力を行い、誌名以外にも特集記事名等の検索が可能となった。

ア 既存データベースの整備状況

データベース名	収録件数	平成17年度増加件数
特殊教育関係文献目録DB	75,837件	3,066件
特殊教育実践研究課題DB	45,023件	944件
蔵書目録DB	85,854件	8,169件
特殊教育法令等DB	153件	12件
特殊教育学習指導要領等DB	33件	4件
特殊教育センター等研修情報DB	1,857件	721件
盲・聾・養護学校研究報告DB	76件	14件
世界の特殊教育DB	835件	229件

イ 平成17年度のデータベースへのアクセス件数

	平成15年度	平成16年度	平成17年度
文献目録DB / 実践研究課題DB / 所蔵目録DB / 研修情報DB / 世界の特殊教育DB / 法令等DB / 指導要領等DB / 盲・聾・養護学校研究報告DB	416,287件	495,670件	482,720件

3 研究成果の普及状況

(1) セミナーの開催

国立特殊教育総合研究所セミナーは年2回、特殊教育の発展、研究成果の普及を目指して、時宜を得たニーズの高いテーマや最新の研究の動向・情報、あるいは本研究所の各種研究成果を報告、公開してきた。

参加者は特殊教育諸学校教員、指導主事、研究者等が多いが、近年の学習障害等をはじめとする軽度の障害のある子どもへの教育的支援に資するために、17年度においても、テーマ、組み立てを工夫して、特殊学級、通常学級担当の教員にも対象を拡大し、今後の教育活動に役立てるように考慮した。

本年度のセミナーの開催状況及び参加者のアンケートは次のとおりである。

ア 国立特殊教育総合研究所セミナー

テーマ： メインテーマ

一人一人の子どもの特別な教育的ニーズに応えるために

- 小・中学校における支援の実際と今後の在り方 -

分科会テーマ

「特別支援教育コーディネーターの役割

- 校内体制の機能と盲・聾・養護学校への期待 - 」

「LD、ADHD、高機能自閉症等の通常の学級における配慮と指導」

「子どもの教育的ニーズに支援の見通しを立てる

- 小・中学校における個別の教育支援計画 - 」

「小・中学校における障害のある子どもへの支援体制の構築

- 特殊学級及び通級指導教室の弾力的運用の可能性を探って - 」

開催日：平成18年1月17日～1月18日（2日間）

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）

参加者：706名

内 容：一人一人の子どもの特別な教育的ニーズに応えるための実現に向けて、小・中学校を中心に教育的支援の在り方についての現状と今後の展望を考えながら、基調講演、シンポジウムを行うとともに、分科会においては、その要となる特別支援教育コーディネーターの役割、通常の学級における配慮や指導、個別の教育支援計画の作成等を視点に小・中学校における教育的支援について議論を深め、課題の実現に向けての協議を行った。なお、特別支援教育制度に関する基調講演については、インターネットを利用してストリーミング配信も行った。

(参加者の反応)

参加者に実施したアンケートでは、「テーマ」についての興味・関心度は98%が「非常にあった」「ややあった」であり、セミナー参加の意義については95%が「そう思う」「ややそう思う」であった。また、講演等で理解が深まったかどうかについても、93%が「そう思う」「ややそう思う」であり肯定的であったが、次のような意見もあり、次年度以降の開催方法などの改善の参考にしたい。

・終了時間は少し早めてほしい。

- ・昼食休憩が長い。
- ・遠方からの参加者が動きやすいように木・金に実施してほしい。
- ・休業中だと参加しやすい。
- ・質疑応答の時間が短い。30分はほしい。

テーマについて興味・関心がありましたか。

非常にあった	ややあった	普通	余りなかった	全くなかった	その他
78%	20%	2%	0%	0%	0%

セミナーに参加して意義があった。

そう思う	ややそう思う	どちらとも	余り思わない	そう思わない	その他
65%	30%	5%	0%	0%	0%

テーマに即した講演・話題内容で、理解が深まった。

そう思う	ややそう思う	どちらとも	余り思わない	そう思わない	その他
55%	38%	6%	1%	0%	0%

イ 国立特殊教育総合研究所セミナー

テーマ： メインテーマ

自閉症の特性に応じた教育

- よりよい指導内容・方法、教育環境をめざして -

分科会テーマ

「自閉症の特性に応じた教育課程の改善・充実を図るために」

「自閉症の子どもの指導のキーポイント

- 養護学校における実践事例から - 」

「自閉症の子どもの社会性を育てるために

- 小・中学校における指導内容・方法 - 」

開催日：平成18年2月22日（1日）

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）

参加者：721名

内 容：これまで取り組んできた自閉症教育に関する研究から、自閉症の特性に応じた指導内容や特性に配慮した指導方法等に鑑み、自閉症教育をめぐる現在の研究到達点や各地の質の高い教育実践を報告するとともに、今後の小・中学校や養護学校における自閉症教育の充実と明日への展望を考える機会として、全体会、パネル討議、分科会を行った。

（参加者の反応）

参加者に実施したアンケートでは、「テーマ」についての興味・関心度は95%が「非常にあった」「ややあった」であり、セミナー参加の意義については93%が「そう思う」「ややそう思う」であった。また、報告内容等で理解が深まったかどうかについても、86%が「そう思う」「ややそう思う」であり肯定的であったが、次のような意見もあり、次回からの改善等の参考にしたい。

- ・開催時期が年度の前半にしてほしい。
- ・2日間に分けてほしい。

- ・案内が小中学校にも届くような配慮がほしい。

テーマについて、興味・関心がありましたか。

非常にあった	ややあった	普通	余りなかった	全くなかった	その他
74%	21%	4%	0%	0%	1%

セミナーに参加して意義があった。

そう思う	ややそう思う	どちらとも	余り思わない	そう思わない	その他
62%	31%	2%	1%	0%	4%

テーマに即した報告内容で、理解が深まった。

そう思う	ややそう思う	どちらとも	余り思わない	そう思わない	その他
47%	39%	7%	2%	0%	5%

(2) 研究成果物の普及

ア 平成17年度中に発行した刊行物

研究の成果等は、研究紀要(A:1冊)や各種の研究成果報告書(研究課題単位で編集される研究報告書(B:17冊発行)、プロジェクト研究等報告書(C:10冊発行)、科学研究費による報告書(F:7冊発行))として35冊編集・刊行し、関係諸機関に配布し、その普及に努めている。

研究の成果以外の刊行物として、研究所の概要や活動を記録した刊行物、セミナーの報告書等を刊行し、配布している。(研究・教育資料(D:12冊発行))

平成17年度は合計47冊を刊行した。

(平成17年度刊行物一覧)

研究紀要(A)

A-33 国立特殊教育総合研究所研究紀要 第33巻

各研究部単位で編集される研究報告書(B)

- B-209 特別な教育的ニーズのある児童生徒のためのICTを活用した教材・教具の開発と普及
- B-208 神経症・緘黙症・精神病・脳の器質的障害等のある児童生徒への教育的支援に関する研究
- B-207 「交流および共同学習」に関する調査研究
- B-206 盲学校および弱視学級等における情報システムおよび地域ネットワークを活用した視覚障害教育にかかわる情報収集・提供の在り方に関する研究
- B-205 国内外における特殊教育の研究・施策の動向とその評価に関する基礎資料の収集と分析
- B-204 肢体不自由のある子どもの指導及び支援に関する研究 - 自立活動の手引き書の作成 -
- B-203 聾学校におけるコミュニケーション手段に関する研究 - 教職員の手話活用能力の向上とこれを用いた指導の在り方の検討 -
- B-202 重複障害のある児童生徒のための教育課程の構築に関する実際研究
- B-201 盲・聾・養護学校高等部における情報教育のカリキュラムに関する研究

- B - 2 0 0 慢性疾患、心身症、情緒及び行動の障害を伴う不登校の経験のある子どもの教育支援に関するガイドブック
- B - 1 9 9 障害のある児童生徒等の教育の総合的情報提供体制におけるコンテンツの充実・普及方策に関する実際的研究：中間報告書
- B - 1 9 8 知的障害教育における領域・教科を合わせた指導と教師の専門性向上に関する研究にかかるガイドブック
- B - 1 9 7 通常の学級における障害理解のためのツール開発に関する研究
- B - 1 9 6 ターミナル期における教育的・心理的対応に関する研究 - 子どもとともにある教育を目指して -
- B - 1 9 5 聴覚障害乳幼児に対する早期からの教育的支援
- B - 1 9 4 なにかできるかな？ なにかできるかな？（試作版）
- B - 1 9 3 盲・聾・養護学校高等部のための情報教育ガイドブック

プロジェクト研究報告書（C）

- C - 6 1 「個別の教育支援計画」の策定に関する実際的研究
- C - 6 0 特別支援教育コーディネーター 養成研修マニュアル
- C - 5 9 特別支援教育コーディネーター 実践ガイド
- C - 5 8 特別支援教育コーディネーターに関する実際的研究
- C - 5 7 小・中学校に在籍する特別な配慮を必要とする児童生徒の指導に関する研究
- C - 5 6 養護学校等における自閉症を併せ有する幼児児童生徒の特性に応じた教育的支援に関する研究 - 知的障害養護学校における指導内容、指導法、環境整備を中心に -
- C - 5 5 小・中学校における障害のある子どもへのアプローチ
- C - 5 4 小学校・中学校の特別支援教育の推進に関する調査結果：調査報告書
- C - 5 3 小・中学校における障害のある子どもへの教育の支援体制に関する研究
- C - 5 2 自閉症教育実践ケースブック - より確かな指導の追究 -

研究・教育資料（D）

- D - 2 4 1 世界の特殊教育 20 (XX)
- D - 2 4 0 Final report of the 25th Asian and Pacific international Seminar on Special Education, 12-15 October 2004, Yokosuka, Japan
- D - 2 3 9 平成17年度国立特殊教育研究所セミナー 資料、テーマ：自閉症の特性に応じた教育
- D - 2 3 8 独立行政法人国立特殊教育総合研究所研究者総覧 平成18年1月現在
- D - 2 3 7 平成17年度国立特殊教育研究所セミナー 資料、テーマ：一人一人の子どもの特別な教育的ニーズに応えるために - 小・中学校における支援の実際と今後の在り方 -
- D - 2 3 6 Newsletter for special education in Asia and the Pacific. No. 25
- D - 2 3 5 独立行政法人国立特殊教育総合研究所広報誌「くりはまの海」(第10号)
- D - 2 3 4 独立行政法人国立特殊教育総合研究所平成16年度事業報告書
- D - 2 3 3 国立特殊教育総合研究所教育相談年報 第26号
- D - 2 3 2 独立行政法人国立特殊教育総合研究所広報誌「くりはまの海」(第9号)
- D - 2 3 1 平成17年度事業概要
- D - 2 3 0 発達障害のある学生を支援するために - 確かな学びと充実した生活をめざして - 【リーフレット】

科学研究費による報告書（F）

- F - 1 3 9 フランス通常学校における特殊教育施設による支援サービスSESSADの成立と評価 - わが国の小・中学校における障害のある子どもの特別支援教育体制への寄与 -
- F - 1 3 8 重度・重複障害児における共同注意の障害と発達支援に関する研究
- F - 1 3 7 通常の学級の児童が障害について学び理解を深めるための教材と学習プログラムの開発
- F - 1 3 6 聴覚言語障害児のリテラシーを高めるコミュニケーションアプローチの研究と教材開発
- F - 1 3 5 言語障害教育における現場指向型教員研修プログラム開発と研修教材データベースの構築
- F - 1 3 4 保護者が管理・活用する個別の支援計画の開発に関する研究 - 自閉症を併せ有する幼児児童生徒の地域生活支援プログラムの開発 -
- F - 1 3 3 障害乳幼児を抱えて就労している保護者に対する地域の特色を生かした教育的サポート

共同研究による報告書（G）

- G - 1 高等教育機関に在籍する盲ろう学生の教育・日常生活支援専門家養成研修カリキュラムの開発

イ 刊行物の電子化と公開

平成17年度は、平成16年度の刊行物を中心に、電子化公開の対象である平成12年度以降の刊行物のうち、未公開であった17件を含む、54件のデータを追加した。

平成17年度末現在、累計で184件（紀要等7件、課題別研究報告書等50件、プロジェクト研究報告書等20件、研究・教育資料等79件、科研費報告書等28件）を公開中であり、対象となる刊行物の約86%の電子化を終了した。

4 研究職員の都道府県等が行う研修等への講師の派遣状況

研究職員は地方自治体の教育委員会、特殊教育センター等あるいは養護学校等が開催する研修・講習会に研修・講習会講師や研究協議の指導者として平成17年度には、延べ160名が出向いた。研究所のこれまでの研究・研修の成果等を広めるとともに、派遣先での反応や研究協議で出た意見等を、研究所での研究・研修の充実に反映させている。

5 研究所の公開

平成17年7月に研究所公開を行った。

各障害別の研究内容や関連情報及び教育相談センターの教育相談実施状況や動向等をパネル等を利用して説明するとともに、視力・聴力検査の実施、注意と認知の困難さに関する体験、車いす体験等を研究職員等の実演を交えて行い、質問にも対応し、近隣の教育・福祉関係者及び地域住民を含めた、約214名の参加者との交流を深め、特殊教育並びに研究所の研究・研修・教育相談等の活動・事業に対する理解啓発に努めた。

その他、施設見学（火曜及び木曜）を随時受け付け、36件、251名の見学者があった。

6 「障害者週間」関連行事

「障害者の日」(12月9日)が「障害者週間」(12月3日～9日)に拡大されてから2年目を迎えた。本年度も障害を理由とする差別禁止の理念の啓発活動が全国で実施されたが、本研究所においても昨年度に引き続き、障害者週間の理念である障害者理解の促進を図るため、一般の方を対象とした講演や体験学習会を実施した。概要は以下の通りである。

テーマ：「N I S E 障害者週間ワークショップ 2005 共に生きる～教育からのアプローチ～」

開催日：平成16年12月8日(木)

場 所：キャンパスイノベーションセンター(東京都)

参加者：一般参加者

協 力：京急電鉄株式会社、筑波大学附属久里浜養護学校及び財団法人障害児教育財団

内 容：全国特別支援教育推進連盟理事長 三浦 和氏及びNPO法人えじそんくらぶ代表 高山恵子氏による講演とトークセッション並びに本研究所の研究職員による障害者理解啓発のための体験学習会を開催した。体験学習は3つのコースに分かれ、それぞれ、認知困難体験学習会、点字体験学習会、手話体験学習会の体験学習を行った。また、情報発信コーナーではポスター展示による研究活動の紹介を行った。

7 まとめと今後の課題

これまで、情報普及活動については、第一期の中期目標・計画に基づき、図書資料等の収集整備、研究成果の普及を図るセミナーの開催、Webサイトを通じた情報発信の充実に努めてきたところであるが、第二期中期計画策定に向けた検討においても、今後、本研究所が特殊教育のナショナルセンターとしての役割を果たしていく上で、特殊教育に関する総合的な情報提供体制を充実することが重要な柱とされたところである。

今後、中期計画に基づき、研究者・教職員等の研究や専門性、指導力の向上に必要な知識等の提供を一層充実していく観点から、大学における研究成果も含めた特殊教育に関する国内外の図書・資料等(とりわけ実践研究の論文・資料)の収集やデータベースの整備等、研究成果の普及を図るセミナーの開催等を計画的に検討・実施していくことが必要である。

そのために、購入図書・雑誌の収集基準の見直しなどを行い、これまで以上に効率的な資料収集に努めることや、年々アクセス件数が増加しているWebサイトについても、より利便性の高い情報提供が行えるよう特殊教育に関するデータベースの更新・効率化やメールマガジンの配信等について検討を進めていくことが必要である。

さらに、研究成果の普及等を図ることを目的に実施しているセミナーについても、受講者である教育現場等の関係者における研究成果の理解の促進や情報の共有を図るため、研究協議等参加型の方法を中心としたプログラムとするなどの改善を図っていくことが必要である。